

札響くらぶ

【編集・発行/札響くらぶ】 064-0931 札幌市中央区中島公園1-15 札幌交響楽団事務局気付
 メール：information@sakkyoclub.net
 ホームページ：http://sakkyoclub.net/sakkyoclub/

2014. 10 **68**



札響くらぶサロン開催の報告

聴き比べって面白いですね！

(第7回札響くらぶサロン開催報告)

第7回札響くらぶサロンが、6月21日(土) 17:30より札幌市教育文化会館401号室で35名が参加して開催されましたのでその様子をご報告致します。

竹津さんをナビゲーターに「同じ曲で指揮者とソリストの聴き比べ」をしました。第一声が「聴き比べて面白いですね」で始まりました。竹津さんの準備されたプレトークがあつたおかげで本当におもしろかったです。

当日のプログラム、第1部は新シリーズ「札響定期アークイブ協奏曲聴き比べ」、チャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番を第96回定期

／指揮 ペーター・シユヴァルト／ピアノ 松浦豊明と第150回定期／指揮 尾高忠明(尾高さんの札響定期デビューのコンサート)／ピアノ アンドレウツツでしたが、実際に聴いてみると予想とは逆に松浦さんのピアノの素晴らしさに感動。2部も新シリーズ「札響定期アークイブ交響曲聴き比べ」、ペーター・ヴェンの交響曲第3番「英雄」を第60回定期／指揮 荒谷正雄と第79回定期／指揮 渡辺暁雄と第242回定期／指揮 尾高忠明でした。第2楽章葬送進行曲のテンポの違いや第3楽章のホルンのトリオのメンバーによる違いなどを



写真上：第7回札響くらぶサロン第1部&第2部、写真下：第3部交流会(6/21、教文会館401号室にて)

じつくりとピンポイントで。札響の準団員と正団員が混ざっていた時から全員がプロに変わってオーケストラが成長していく過程も音で感じ取る事が出来ました。第3部は恒例の「交流パーティー」、札響第1バイオリンの河邊さんの乾杯でスタートです。元STVのアナウンサー林美香子さんからクラシック番組を担当していた頃内容について竹津さんと打ち合わせをしていた

いつもながら八木先生の音楽トークは面白いですね！

(第8回札響くらぶサロン開催報告)

第8回札響くらぶサロンが、9月6日札幌市教育文化会館402号室で開催されました。八木先生の軽妙なトークに興味津々！本当に楽しいひと時でした。

【TAKETSU MEMORIAL SALON】とついで遺志をつなぎます」皆さんもご存じのように札響くらぶサロンナビゲーターの竹津さんが7月5日に急逝され、サロンの運営にも再構築を余儀なくされました。幸いにも札響定期演奏会プレトークでわかりやすく軽妙なトークで人気の八木先生にご相談し、新ナビゲーターとして企画から解説まで協力

の承諾をいただくことが出来ました。

第8回札響くらぶサロンに「TAKETSU MEMORIAL SALON」の冠をつけた。札響くらぶサロンに「TAKETSU MEMORIAL SALON」の冠をつけた。遺志をつなぐことになりました。

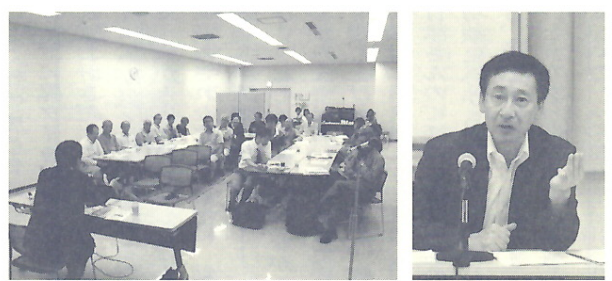
第1部・第2部を通して、2014年後期定期演奏会の聴きどころでした。後期演奏会は、10月第573回定期に尾高マエストロ登場でマラー 交響曲第9番です。八木先生の解説があり、10月定期が楽しみです。11月には第574回定期プログラムス交響曲第2番、1月はブラームスピアノ協奏曲第2番、そして、いよいよギターでの尾高音楽監督として最後の演奏会はシベリウスチャクルス最終章です。それぞれ、過去の演奏会を振

んです。」というお話も聞きました。今回初めて使用した401号室はスタジオなので天井も高く響きも良く、大変満足のできる音で聴く事ができました。いつかはこのサロンで生演奏をと強く思いました。パーティーが終わった後、スタッフの反省会をこの会に参加いただいている会員の松岡さんのお店「オールド・クラシック」で行いましたが、乾杯と同時にチャイコフスキーのピアノがかかった瞬間、同じ時間を過ごした人同士また共感できる喜びは更なる満足感！余韻まで長々と楽しめた最高の一日でした。(上野)

【新ナビゲーターの八木先生のプロフィールを簡単に紹介します。】八木先生は、北海道教育大学特設音楽科を卒業され、バンガリー、ゾルタン・ユタレイ音楽教育研究所を修了されています。現在は、札幌音楽家協議会専門委員長や北海道作曲家協会会長を務めておられます。そして現役の札幌市立西岡北中学校教諭でもあります。(西川)

り振り返りながら、作曲家ブラームスの恋物語を聴き、軽妙なトークに酔いしれたひと時でした。

第3部は竹津さんの奥様も参加され、交流会がまさに竹津メモリアルサロンの様相でした。楽員の河邊さんからも、参加された方々からも、竹津さんへの感謝の言葉と数々の想い出話の時間でした。



写真右：八木幸三さん、写真左：第8回サロン(9/6、教文会館402号室にて)

竹津 宜男さんを偲んで

札幌くらぶ元顧問・副会長

弔辞 (札幌くらぶ会長 上田文雄)

7月11日(金) 於…札幌パークホテル

竹津 宜男(たけつ・よしお)さんの遺影を前にして、私はPMF組織委員会を代表して、また札幌交響楽団の応援団「札幌くらぶ」の会長として、更には30年来のご交誼を頂いた友人として、謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様にご心からのお悔やみ申し上げます。

なるために札幌に来られホルン奏者として活躍されたのち、そのお人柄から事務局長に就任された竹津さんは、持ち前の行動力で札幌交響楽団の発展に多大なるご貢献をされました。

去る7月6日私はあまりにも突然に我が敬愛する竹津さんの訃報に接し、我が耳を疑うとともに、かけがえない方を失ってしまった深い悲しみでいっぱいでありました。

札幌交響楽団の創立メンバーと

その一つが「札幌は武満徹作品を最もよく理解し最良の演奏をするオーケストラ」という評価を武満さんご自身から頂き、また映画「乱のスクリーンミュージック演奏により世界の黒澤から絶賛を受けて、札幌ブランドを作り上げ、札幌にとつてかけがえない自信と誇りをもたせてくれたことが挙げられます。謂わば、武満

伝説と黒澤伝説による札幌ブランドの形成の功績といえると思います。

更には、豊富な音楽経験と幅広い人脈を生かして、「札幌芸術の森」造りや「札幌コンサートホール

・キタラ」の建設にあ



第7回札幌くらぶサロン(2014.6/21札幌市芸術文化会館)でナビゲーターを務める竹津宜男さん

たつての様々なご提言助言によるご貢献、PMFの組織運営の基礎づくりや札幌アートステージ実行委員会会長や札幌ACF(芸術文化フォーラム)会長として、音楽ばかりではなく広く札幌の芸術文化推進の舵取りを担って来られました。竹津さんの生涯は、謂わば今日の札幌の芸術文化の先導者であり象徴的存在であった、私はそう思います。札幌の応援団「札幌くらぶ」の会員並びにアドバイザーとしての活躍もオーケストラと市民の溝を埋める重要な活動でした。私達の「札幌くらぶ」会報、竹津さんに連載して頂いた「札幌物語」は66回を重ねました。絶筆となった原稿の最後は札幌と指揮者の朝比奈隆さんの物語でした。最終行には「93歳の時ピアノの小山実稚恵と共に演じた演奏会の後で入院そのまま亡くなられたそうだ。」と記されている。竹津さんもきっと音楽に満ちた人生、朝比奈さんのようにもともととつと長生きしたかったに違いない、私はそう読みました。特に、札幌の夏の風物詩としてすっかり定着したPMF(音楽を通じて平和の実現を図る教育音楽祭PMF)においては、組織委員

会のオペレーティング・ディレクターとして長く活躍いただいたばかりでなく、退任後は「PMFを応援する会」の会長としてPMFを支えるための募金活動を展開するなど、常にPMFの発展に向けた活動をしてこられました。本年は、PMFが25周年の節目を迎え、世界の若手音楽家を育てる国際音楽教育祭として確固たる地位を築くことができたのは、竹津さんの多岐に渡るお力添えの賜物と、深く感謝申し上げます。今年も26カ国地域から122名の若き音楽家が札幌に集つてまいりました。明日のオープニングコンサートでは、25周年に因んで250本のトランペットでファンファーレが芸術の森野外ステージで吹き鳴らされます。

竹津さんも往年のホルン奏者としてホルンをトランペットに持ち替え250人のトランペッターの一員として参加すべく、練習をされていたとお聞きしました。竹津さん、逝くのは早すぎた、本番は明日ですよ。私もトランペットを愛するものとして、竹津さんと一緒に250本のトランペットファンファーレと一緒にステージに立ち、高らかにPMF25周年を祝いたかった、そう思います。

札幌市では、竹津さんの札幌の文化芸術への多大なる功績に敬意を表し、平成24年に「札幌芸術賞」を贈呈させていただきました。これからも、これまでの知見をもとに様々な場面で活躍いただけるものと期待していた矢先の悲報であつただけに、本当に残念でなりません。竹津さんが札幌交響楽団のメンバーになられたのは、昭和35年初めて演奏旅行で北海道に来られた際、札幌の美しい街並みや時計台の音色に感銘を受けたことがきっかけの一つになったと伺っております。それから半世紀以上が経過し、札幌は194万人の市民が生活する、日本有数の大都市へと発展を遂げてまいりました。しかしながら、これからの将来、人口減少や超高齢社会の到来、エネルギー政策の見直しなど、従来の価値観や考え方を前提とすることができない、謂わばパラダイム・シフトが必要な時代が到来しております。こうした中でも、竹津さんをはじめとする先人たちが築きあげてきたこの芸術文化にあふれる豊かで魅力的な街を次の世代に引き継いでいくためには、国連ユネスコが認定した「創造都市さっぽろ」の名が示すとおり、日々の生活の中で創造的な取り組みを積み重ねていくことが不可欠です。竹津さんが手掛けてこられた諸活動は、そのどれもが創造性に満ちあふれたものであり、市政運営の重要な指針とされるべきものであります。その精神とこれを継続実践された情熱を、私をはじめとする札幌市民がしっかりと受け継ぎ、今後のまちづくりに活かしていくことを、ここにお誓い申し上げます。それにしても、もうあの温和な、何時お目にかかっても優しいまなざしの竹津さんに、そこに居られるのがあまりに当然であつたコンサートホール・キタラにおいて、もうお目にかかることができなくなってしまう、この非日常を思う時、寂しさを哀惜の念を禁ずることができません。家族葬と聞き及びましたが、ひと目お会いしてお別れを申し上げたい感情を抑えきれず、ご迷惑を顧みず押しかけ、最後にお見かけした棺の中の竹津さん、タキシードに黒タイをピシッと決められ、お好きだったフォールのレクイエムが低く優しく流れるなかで、我が人生に悔いなしとばかりに満たされた平穏な表情に、私は安堵し「天晴 ブラヴオー！ 竹津！」と心のなかで叫びながら、お別れをさせていただきました。申し上げれば限りもなく、惜別の情はつきませんが、在りし日の竹津さんのご活躍を偲び生前のご功績に心からのお労いを申し上げます。追悼の言葉といたします。どうか安らかに眠りください。

川村 喜芳

(札幌くらぶ会員)

竹津宜男さんに初めてお会いしたのは昭和55年12月、私が北海道教育委員会に赴任して間もない頃でした。新年度予算の編成作業に入った頃だったので、札幌の運営状況について説明するため、専務の阿部隆次と一緒に来庁されたのです。

それ以来、竹津さんには度々お会いする機会がありました。教育委員会を離れた後も竹津さんの穏やかな人柄に惹かれて仕事を離れたお付き合いが続き、平成8年に札幌くらぶを立ち上げた時にはいろいろと助言をいただき、札幌くらぶの船出を助けていただきました。

その札幌くらぶの会報に、長年連載された「札幌物語」も未完のままもう読めなくなるのは本当に残念なことです。

音楽愛好家の上田文雄さんとも親しいお付き合いがあり、上田さんが市長選挙に出馬された時には熱心に支援活動に取り組み、2期目の選挙では公約検討グループに参加して、文化政策についていろいろと政策提言をして頂きました。

2期目の投票日の夜、選対事務所に詰めかけた支援者が当確の1報が出るのを待ちかねている中に、竹津さんが「当確まだ出ませんか」と言いながら部屋に入ってきたことを思い出します。

誠実で明るく、穏やかな人柄で皆に親しまれ、多方面で活躍された竹津さんが逝ってしまったことは、音楽界のみならず北海道にと

島方 晴康

(札幌ホルン奏者)

私が札幌に入団したのが1990年の夏で、竹津事務局長在任中の最後の入団者でした。

札幌を第二の故郷として選んで緊張している私を温かい笑顔で応対してくださり、その柔和なお顔を今でも鮮明に覚えています。

私は第1回PMFに参加し、札幌が好きになって縁あって札幌に入団しました。

竹津さんとは日本でのホルンの師匠が一緒でしたし、会うと色々なお話しをさせて頂きました。

昨年、札幌に日本ホルン協会がホルンフェスティバルを誘致した際、竹津さんに実行委員会の顧問就任をお願いしたところ快諾して頂きました。

テーマを「北海道のホルン」としてホルンの「過去・現在・未来」に繋げる企画にしたいと竹津さんに相談したところ、とても喜んで頂き、竹津さんに北海道のホルンの歴史についてパネルディスカッションという形でご出演頂きました。貴重なお写真もお借りし沢山のお話しを伺うことが出来ました。

とって大きな損失であり、本当に残念なことです。竹津さん、安らかに眠りください。



竹津

ホルンフェスティバル「札幌」でのシンポジウム「北海道のホルン」の竹津さん(2013.9.22、札幌大谷大学の大会記念ホール)

多くの方々からはこのパネルディスカッションが一番面白かったと大好評で、終わってから「島方、いい企画だったな、よく頑張ったな」と、誉めて頂きとても嬉しかったのを昨日のことのように思い出します。

いつも温かく、太陽のような笑顔の竹津さんは憧れの先輩でした。

フェスティバルの一年後に追悼文を書くことになるとは想像もできませんでした。

あのタイミングでしか出来なかった企画だったのだとつくづく思い心から感謝しています。

大事なものをバトンタッチされて旅立たれた竹津さんの想いを

鈴木 美保

(札幌くらぶ副会長)

「さよなら」涼しい声と笑顔でエレベーターに乗られて2週間後、この世を去られるとは思ってもよらぬ別れでございました。この日(6月21日)の札幌くらぶサロンで行われた、札幌定期演奏会で演奏した同じ曲での聴き比べで、懐かしい初代指揮者荒谷政雄氏、渡辺暁雄氏、尾高忠明氏を聴き、

ペーターシュバルツ氏を加えたお話しは心を弾ませ、この53年間の歴史を彷彿させてくださいました。1961年9月札幌市民会館で札幌初演の舞台、ホルン奏者として遠くから見上げて以来、事務局長として活躍、ハイメス創立以来

我々が引き継いでいかなければと思う日々です。

毎年の新年会の華麗なる司会者のお姿、PMFを札幌誘致に成功され、コオーディネーターのみならず毎年ボランティア研修講義で楽しく活動することの大切さを身をもって教えて下さり、30年ぶりで身近に感じさせていただきました。

そして、1996年札幌くらぶ創設の折、7名の設立委員の中に笑顔を見せた折には緊張感が解けて温かい気持ちにさせて下さいました。

大平 まゆみ

(札幌コンサートマスター)

満天の星空を見ながら思う、命の不思議さ。宇宙の長い歴史の中の本当に小さな1点を人生の長さとして生きる我々のことを。必ず訪れる終わりのむなしさを。笑顔しか思い出せない、そして今でもはつきりとお声が聞こえてくる故竹津宜男さん。

札幌の大先輩。人生の大先輩。音楽家として、音楽界の真のリーダーとして心から尊敬してやまない大先輩。

私が担当していたあるラジオ番組を通して、ハイメスオーケストラでPMFを応援する会で……。

この数年間、いろいろな場面でお近づきになって、本当に幸せです！

て、肩を並べてお話しできる存在になりました。札幌を維持し盛り上げ札幌市民のものとして誇りをもって応援していくという意識を持たせていただきました。

舞台上の演奏者から先生、そしてお仲間と35年かけてその距離が縮められて私にとっては何物にも替え難い喜びでございました。

札幌は勿論のこと音楽に携わる方々の世界に羽撃く支援には頭の下がる思いであり、笑顔とともに永く私の胸に感謝をもって刻まれて行くこととさせていただきます。

温かく、熱く、明るく、精神的なエネルギーの持ち主。行動力も卓越しておられました。音楽を心から愛されヴァイオリン、ホルン、ヴィオラと、私が存じているだけでも3つの楽器を弾かれ、ご自身の背中、音楽に携わることの素晴らしさを教えて下さいました。

個人的には、いつも私の健康を案じてくださる、優しいおかたでした。

竹津さんのように大きなことはできないけれど、自分が信じていることを一つひとつ大切に実行していきたい。天からの竹津さんの笑顔が感じられるように。

私達たくさんの方々の音楽家達が竹津さんのお気持ちを引き継いでいきます！



左から2人目が竹津氏(札幌芸術賞)、藤田氏(北海道文化賞)受賞祝賀会(2013.2.27、札幌パークホテル)

11月〜1月の定期・名曲シリーズ演奏会 演奏会を楽しく聴くために

八木 幸 三(札幌くらぶ会員、北海道作曲家協会会長)

森の響フレンドコンサート

札幌名曲シリーズ Vol.4

〜エリシユカ

チエコ名作アルバム

11月8日(土) 14:00

札幌コンサートホール大ホール
指揮：ラドミル・エリシユカ



ラドミル・エリシユカ ©野口隆史

■スメタナ/歌劇「売られた花嫁」

序曲

チエコは17世紀から長い間、オーストリアの圧政に苦しんでいたが、19世紀になり民族意識の高揚と共に、チエコ独自の音楽をつくりあげる気運が起こる。チエコ国民楽派の中心となったスメタナは、はじめのチエコ語によるオペラ「売られた花嫁」を作曲し、多くのチエコ人に勇気を与えた。スメタナが完成

させた歌劇は8作品あるが、この作品はその2番目にあたる。彼自身はこの作品よりも第3作目の「ダリボル」を自信作と見ていたようだ。それは、「売られた花嫁」はおもちゃみたいなもので、これを作曲したのは、ただの遊びに過ぎなかった。私を、このことをワグナーの信望者と思いき、軽いつ分の作品など書けないと思っている連中に一泡ふかせるために書いたに過ぎない。」との作曲者自身のことばからもわかる。軽快な序曲からはじまるこのオペラは、多少戯画的な技法をまじえながら農民の生活を喜劇に仕立て、誰もが楽しめるチエコ国民歌劇の最高傑作と呼ばれる作品となった。

■フィビヒ/詩曲「管弦楽のための牧歌」黄昏より

スメタナの正統な後継者と目されていたフィビヒは、チエコ国民楽派の中でもドイツ・ロマン派の系統の作曲家で、ドヴォルジャークやヤナーチェクのような民族色の濃い作風と一線を画している。しかし、チエコ民謡の旋律やチエコ伝説を主題にしたオペラを作曲し、独特の作風を持っている。晩年18歳年下の教え子と親密な関係になるが、この詩曲は、彼女の影

響を受けながら作曲されたピアノ連弾曲が原曲となっている。
■ヤナーチェク/「のこぎり」ラシスコ舞劇集より
ヤナーチェクの名前は村上春樹の小説に登場した「シンフォニエッタ」のお陰で、多くの人々にすっかりお馴染みになった。彼は60歳を過ぎてから38歳年下の人妻と恋に落ち、それが創作意欲の源になって多くの傑作を生んだというので、高齢化社会の日本人に夢と希望を与えてくれている。
ヤナーチェクの出身地を題名に戴く「ラシスコ舞劇集」は、彼がモラヴィア民謡など民族的な素材を用いた初期の作品で「昔の踊り」をはじめ6曲から構成されている。「のこぎり」は、その最後の曲で、親しみやすい旋律がのこぎりを弾くように反復され、農民の素朴な生活が伝わるような作風だ。

■スメタナ/モルダウ(ウルタヴァ) 連作交響詩「我が祖国」より

合唱歌にまで編曲されている哀愁を漂わせる旋律で有名なこの曲は、チエコの国民的作曲家スメタナが、完全に聴覚を失い肉体的、精神的苦悩の中から生み出した6曲の連作交響詩「我が祖国」の中

■ドヴォルジャーク/スラヴ舞曲集 Op.72 (全8曲)

の2番目の作品である。この「我が祖国」には、作曲当時、オーストリア帝国から独立しようとしていた祖国に対する作曲者の思いが込められている。ボヘミア地方を南北に流れるヴルタヴァ川(ドイツ語圏ではモルダウ川)の源流からいくつかの情景が音楽で描かれていく。森とそこで狩り、農村での結婚式での楽しい踊り、月の光と妖精の踊り、急流で岩に水が激しくぶつかる様子、そしてヴィシェフラト城下の雄大な情景までを卓越した管弦楽法で描いていく。

■ウェーバー/歌劇「魔弾の射手」序曲

ブラームスは、オーストリア政府後援の「若手芸術家育成会」で審査をした時に若きドヴォルジャークを見つけ、かつて自分がシューマンから助けられたように今度は、ドヴォルジャークを援助しようと考えた。その関係もあったのだろうが、ブラームスの「ハンガリー舞曲」の楽譜出版が大ヒットしたおり、気をよくした出版社ジムロックがドヴォルジャークに8曲からなる「スラヴ舞曲集」を新進作曲家としては、高額の報酬で依頼した。それが大好評だったため8年後に同じ曲数の第2集「我が祖国」が「新スラヴ舞曲」として最初の十倍の報酬で作曲された。ピアノ連弾版の原曲を管弦楽化し、オーケストラ作品としても大傑作となった。第1番(最初の

■モーツァルト/交響曲第38番ニ長調「プラハ」

ゾーゼフ2世によって推進されていたドイツ語による国民劇場運動で、「後宮からの誘惑」が大成を取



ラドミル・エリシユカ ©野口隆史

第574回札幌定期演奏会

11月14日(金) A日程 19:00

11月15日(土) B日程 14:00

札幌コンサートホール大ホール

指揮：ラドミル・エリシユカ

舞曲集から数えると第9番は、生き生きとした壮大な主題から優美な旋律が対比的に現れ展開されていく。第2番は、後にクライスラーがヴァイオリン独奏曲に編曲して一層有名になった叙情的な名作。第3番は、2拍子の速い旋律がフルート、クラリネット奏される軽快な音楽。第4番は、木管楽器による柔らかなく優美な旋律が、対比的なヴァイオリンの旋律をはさむ3部形式の作品。第5番は、特徴あるリズミにのせ、ゆるやかに幅広い部分とヴァイヴァーチェの活気に満ちた部分の対比が面白い。第6番は、優雅で落ち着いた雰囲気を持ち、古典的な美しさをもつ旋律が聴き所。

ラダ。その序曲は基本的にソナタ形式だが、オペラに登場するさまざまな旋律が次々に現れ、まさに幕開けにふさわしい序曲で、後のベルリオズやワグナーにも大きな影響を与えた。ホルンによる主題は、ドイツでは賛美歌にも採られるほど有名だ。

■モーツァルト/交響曲第38番ニ長調「プラハ」

ゾーゼフ2世によって推進されていたドイツ語による国民劇場運動で、「後宮からの誘惑」が大成を取

ラを受け入れた。プラハの人々の歓迎に気をよくしたモーツァルトは、翌年、プラハでこのオペラ再演の2日後に交響曲第38番を初演し喝采を浴びている。この曲は、「フィガロの結婚」との関連が強く、序奏部の悲劇的緊張や内的感情のドラマティックな起伏は、「ドン・ジョヴァンニ」を予見させている。またバロック音楽のような多声的技法が全曲に深く浸透している。メヌエット楽章が削除され、3楽章構成ながら、第1楽章にゆるやかな序奏が置かれ、応用されたハイドンの書法が一段と拡大されて重みを与え、後の「三大交響曲」に比肩する珠玉の作品となっている。

■ブラームス／交響曲第2番ニ長調

ブラームスの交響曲第1番と第2番は、対をなしていると言われている。このことは、ベートーヴェンの第5番と第6番の相似性が引用されるが、確かに第1番はハ短調であり第2番が「田園風」でおらかな楽想を持つニ長調で書かれ、作曲時期が、ベートーヴェンが両曲を同時期に平行して書いていたのと同様、ブラームスが、第1番を20年ほどかけて完成直後、第2番をわずか4ヶ月で書き上げていることでも言える。アルプス山麓のヴェルター湖を眺望できるベルチャッハは、ブラームスにとって桃源郷のような地であつたらしく、ハ

■チャイコフスキー／ヴァイオリ



オーガスティン・ハーデリッヒ



クラウス・ペーター・フロール ©Shawn Northcutt

ンスリックに宛てた手紙には「ここでは旋律がこんなに沢山生まれてくるので、散歩の時、それを踏みつぶさないように気をつけたいといけない」とまで書いている。作品自体は、緻密な構成で、第1楽章冒頭の基本動機が、楽曲全体に巧みに織り込まれひとつの統一性を保ちながら、牧歌的な美しい旋律が何の誇張もなく展開されていく。

第575回札幌定期演奏会
12月12日(金) A日程19:00
12月13日(土) B日程14:00
札幌コンサートホール大ホール
指揮／クラウス・ペーター・フロール

ヴァイオリン／オーガスティン・ハーデリッヒ

パリでラロの「スペイン交響曲」を聴いたチャイコフスキーは、サラサーテが演奏するその曲に大感激し、自分もロシアの民族的要素を内包するヴァイオリン協奏曲を作曲しようと決意する。当時、不幸な結婚生活に破れた後、メック夫人の援助を受けスイスで神経衰弱の療養をしていた作曲者は、友人のヴァイオリニスト、コテックの助言を受けながらわずか1ヶ月たらずでこの曲を完成させた。順調な作曲に反し、初演は難航。当初、この曲を献呈しようとした大御所アウアーに演奏不可能と言われ、やっとこぎ着けたウィーンでの初演でも音楽評論家ハンスリックが、「粗野な悪態を聞き、安酒の臭いを嗅ぐようだ」と酷評される。しかし、初演したヴァイオリニスト、プロズキが普及につとめ、ロシア民衆が自分たちの音楽として受け入れる中、評価も高まっていった。まさにロシアの力強い民族的味わいが堪能できる作品だ。

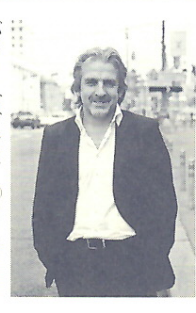
■シヨスタコヴィチ／交響曲第15番ニ長調

この曲を10年ほど前、尾高忠明指揮の札幌定期で聴いたとき、何となく「人を食った曲だな」と思った。「ウイリアムテル」や「神々の黄昏」の旋律がバロディー風に現れたり、大きな編成の割に室内楽的なアンサンブルが続く。モーツァ



ユベール・スダーン

■ブラームス／ピアノ協奏曲第2



バリー・ダグラス ©Kazuo Koyama

ルトやベートーヴェンの最後の交響曲は、まさにグレートだが、これがシヨスタコ最後の交響曲なのかなど感じた。第1楽章は、おもちゃの兵隊が誰かに操られているような滑稽さがあり、第3楽章は、12音音列とその反行形でできている奇妙なスケルトンである。社会主義体制の中で、本当の自分を出し切れなかった作曲者の心のバズルがこの曲なかもしれない。

第576回札幌定期演奏会
1月30日(金) A日程19:00
1月31日(土) B日程14:00
札幌コンサートホール大ホール
指揮／ユベール・スダーン
ピアノ／バリー・ダグラス

番交ニ長調
最初のピアノ協奏曲が書かれてから20年ほどして作曲されたこの協奏曲は、それまでのオケと対峙しながら華やかなピアノリズムが繰り広げられると言うよりは、ピアノもオケの一部のようにとけ込みながら、重厚な管弦楽を聴くような趣がある。ブラームスは、この20年の間に2つの交響曲とヴァイオリン協奏曲をつくりあげ、管弦楽の醍醐味を完全に手中におさめた自信が、交響曲のような4つの楽章に表れている。1878年にブラームスは、憧れのイタリア旅行を果たし、その夏に交響曲第2番を書き上げたベルチャッハでこの曲のスケッチを手がけた。そして、彼の音楽のさまざまな特質が集約され、彼自身の内的な欲求と精神の高揚が、このピアノ協奏曲を生んだと言って良い。ピアノの妙技とともにホルンやチェロなどの美しい独奏もたつぷりと聴けるのも楽しみのひとつだろう。

■フォーレ／組曲「ペレアスとメリザンド」

ほの暗いノルウェーの城を舞台にしたメテリリンクの戯曲「ペレアスとメリザンド」は、1893年にパリで上演された。その5年後、英訳によるロンドン初演のためにフォーレが付随音楽を書いている。この曲は、それを組曲としてまとめ直したもので、I「前奏曲」II「糸を紡ぐ女」III「シリエンス」IV「メリザンドの歌」(省かれることもある) V「メリザンドの死」からなっている。特に「シリエンス」は、CMでもお馴染みの美しい旋律で単独にフルトなどで演奏されることがある。この曲は多忙だった作曲家が未完成に終わった「町人貴族」のための曲から流用している。このロンドン初演の4年後にはドビュッシーが同名の歌劇をつくっている。

■ラヴェル／「ダフニスとクロエ」第2組曲
ダフニスとは、クロエの愛を得るため牛飼いでルコンに勝ち、さらに海賊にさらわれたクロエをパンの神が助け、ダフニスとクロエが再会する。そんな幻想的なバレエ音楽をロシア舞踊団の大御所ディアギレフが、ラヴェルに依頼した。ラヴェルは卓越したオーケストレーションを駆使し、4年の歳月をかけて、合唱を伴う壮麗な「舞踏交響曲」として全曲を完成させた。1912年、当時37歳のピエール・モントゥーの指揮で初演されている。バレエ音楽は、3部からなっているが、第2組曲は、「夜明け」から始まり「無言劇」「至員の踊り」と第3部のほとんどがそのまま使われている。ハーブと弦楽器、さらに色彩豊かな木管楽器の響きは、夢のような世界へ聞き手を誘ってくれることだろう。
(写真協力／札幌交響楽団)

新しい会員証が発行されました

今年から平成28年9月までの別のデザインの会員証が発行されました。会員証は今回から2か年有効となりますので大切に保管してください。紛失などされた場合は氏名、会員番号、メールアドレス又はファックス番号を明示してメール、ファックス又は郵便でお申し出ください。お申し出された年度の年会費の納入状況を確認し、再発行などの連絡をさせていただきます。

今年発行された会員証は、平成26年7月20日までに平成26年度の年会費の納入が確認された会員に対して発行されており、7月21日以降に平成26年度の年会費の納入が確認された会員の会員証は、月単位で確認して翌月上旬に発行してまいります。

会員証は、平成26年9月30日までは2種類が有効となりますが、使用には支障がありません。

会員証には、これを提示することにより次の特典があります。

一 札幌交響楽団主催演奏会のチケット

① 定期演奏会チケットの10%割引(ただし、U25席チケットを除く。)及び名曲シリーズSS席及びS席チケットの10%割引(A席、U25席のチケットの割引はありません。)

二 テラスレストラン・Klara

② テラスレストラン・Klara 会計時又は注文時に会員証を提示することにより、店内での

三 名曲シリーズ割引価格(SS席、S席のみ、カッコ内は定価)

SS席 4,500円

S席 3,600円

(5,000円)

(4,000円)

(3,000円)

(4,500円)

(5,000円)

(4,000円)

(3,000円)

(4,500円)

飲食料金が10%の割引を受けられます。ただし、対象外となるメニューがありますので、係員に確認してください。また、グラスワインのサービスがある場合もありますので、あわせて係員に会員証提示して確認してください。

三 ヤマハミュージックリテイリング札幌店

(Tel.011-5121-1726)

会計時に会員証を提示することにより、店内の商品を購入される場合、5%の割引を受けられます。また、対象外となる商品がありますので、係員にお尋ねください。

ただし、キタラの出店では適用されません。

四 ダイニング「イル・ネージュ」

(Tel.011-7171-2555)

ご注文の際に、会員証を提示して「札幌くらぶ」と申し出てくださいますので、素敵な特典が

ありますので、期待ください。

(事務局長 武藤義典)

新しく発行された2016.9.30までの会員証



新しく発行された2016.9.30までの会員証

福田善亮 with 松本寛之 trio ~ Standard Jazz Night III ~

「福田善亮 with 松本寛之 trio」 Standard Jazz Night III」が、7月19日

20:00からワイン

バー「ピノ」である

ことを1ヶ月程前に

知り、早速電話でチ

ケットを予約した。

当日、20分程前に

松本さん、福田さん

の出迎えて受付を済

ませ、お店に入ると

すでに二十数名が開

演を待っており、演

奏が始まるころには

30人を超えて

いた。

出演は、福田善亮(札幌トラン

ペット首席)、松本寛之(ピアノ)、

山田修世(ベース)、福田厚青(ドラム)の4人、松本さんの笑いを



左から松本さん、福田さん、山田さん、福田さん(7月19日ワインバー「ピノ」にて)

最後の曲「Till Close My Eyes / ビリー・レイド」は、トランペットのソロ、そしてピアノ、ベース、ドラムのソロと続き、福田さんのいい音を出し、さすが札幌の首席と唸らせてくれる演奏でした。

松本さんはジャズピアノリストとしての実力を遺憾なく発揮して聴かせてくれました。山田さんのベースは、その響きが手が触れたワイ

ングラスに伝わってきて、おなか

の底に響きました。そしてトリン

福田さんのドラムは、超絶技巧の

低音が体の芯がしびれるくらいに

響かせてくれました。

そしてアンコール曲はジャズの

スタンダードナンバーとして定着

している「Blue Bossa / ケニー・ドーム」で、哀愁のあるメロ

ディーが印象的な曲でした。

演奏の間、私はおなか空いて

いたので、ホタテとバジルソースの

バゲティを肴に、お店がすすめる

白ワインを飲みながら演奏とワイ

ンに心地よく酔って聴いていました。

このお店は、これまでもヴァ

イオリンの岡部亜希子さんやチェ

ロの武田芽衣さん、ヴァイオリンの

中村菜見子さんが出演しており、

これからも札幌のメンバーが出演

する演奏会を企画することです。

札幌くらぶとしてもそういった

演奏会をホームページで紹介し、

第571回札幌定期演奏会ゲネプロ見学会

8月29日、札幌コンサートホール大ホール

第571回定期のゲネプロ見学会に参加した。本番直前のリハーサル、且つ難解な現代曲というこ

とで、緊張感一杯では...と思っ

ていると、「白い恋人」と大きく白

抜きした黒いTシャツ姿で現れた

下野さんに楽員さんも笑顔で迎え

和やかな雰囲気。後半の「ユー

大で温かい拍手があった。(定政)

伊福部昭の埋もれた作品について

札幌第569回定期は、伊福部昭の100歳の誕生日を記念して、オール伊福部の代表作4曲が演奏された。いずれも伊福部音楽の真骨頂を聴かせる熱演であった。さて、伊福部昭はご存知のとおり、管弦楽曲、吹奏楽曲、器楽曲、歌曲のほか、舞台芸術のための音楽、映画音楽、過去の作品を流用した映画・テレビ作品、放送のための音楽、市歌、町歌、校歌と作品が多岐に亘り極めて多いが、これらのいずれにも含まれていない、伊福部昭作品としては独立したジャンルの労働組合のための作品（敢えて言うならば歌曲か）が存在することを知人からお聞きし、伊福部昭みずから指揮されたSPレコード（CD収録版）を試聴させてもらったところ、北海道の大地を力強くゆったり表現された伴奏をもとに、労働歌として、あるいは合唱曲としてもきわめて芸術性の高いものと考えられた。この作品は、ぜひ伊福部昭の作品一覧に付け加えられるべきものと考え、ここに紹介したい。本件についてご関心のある方は、筆者（011-581-17196）までご連絡下さい。

曲名・全開発の歌。全開発とは、元総理府北海道開発庁の事業現場、北海道開発局（現国土交通省

北海道開発局）の職員組合の略称で、この歌はこの組合（組合員数最大時約1万3千人）の士気を鼓舞するために作られたものである。作詞・沢谷純一（当時、北海道開発局職員）

交響的組曲「ユーカラ」なんて心に沁みてるのだろうか

（札幌第571回定期演奏会を聴いて）

ギター大ホールのステージが暗くなり、スポットがともり、たたひつそりとクラリネットの独奏が始まった。その音色は、奥深い森の中の鳥たちのさえずりであり、ざわめきにも聴こえる交響的組曲「ユーカラ」の始まりであった。この導入部ですっかりこの曲のとりこになった。なんと心に沁みる曲なのだろうか。：はじめて聴く交響的組曲「ユーカラ」への期待が膨らむ：

そして、フルートと共に悲しげな響きを奏でる。この音はあまり聴いたことがない音調である。神秘的もある。こうして交響的組曲「ユーカラ」は始まった。第2曲の「ハンロッカ」とは燕の神のこらしい。ヴァイオリン群の響きはどこまでも透明で、あの知床の極寒に響きわたる説得力のある、さすが札幌の誇る弦である。魅了され続けている。3曲はコントラバスを除

制作・全北海道開発局職員組合
作曲と指揮・伊福部昭
演奏・東京ヴォーカルグループ
合唱団、伴奏については東京シンフォニーオーケストラとピアノ版がある。
録音・コロムビアレコード（SP）
P1616（昭和29年10月ころ制作）
録音時間は、それぞれ約3分30秒
（札幌くらぶ会員・川端習太郎）

いた弦楽器のみによる叙情詩だ、第一ヴァイオリンとチェロのユニゾンが始まる。つづいて第二ヴァイオリンとヴィオラが加わって最高音に到達した後、静かに曲を閉じてゆく。そして4曲で打楽器群がまじりの様相を奏でる。第5曲（つづき最終第6曲）と、打楽器、管楽器、弦楽器の緊張あふれる演奏である。楽員さんたちも指揮者のタクトに集中し、隙のない緊張感漂う演奏である。

：そういえば、むかし零下30度にもなる北海道の極寒の地で仕事をしていたことがある。どこまでも真白である。ぬれたタオルはすばやく凍り、金物には素手で触ると指が凍傷してやけどのように皮がはがれる。音や声は透明にどこまでも響き伝わる。これが北海道である：そんな想いをたどりながらこの交響的組曲「ユーカラ」を聴き入っていた。現代曲の様相を呈したこ



第571回札幌定期演奏会で指揮する下野マエストロ(右)と演奏会全景(左) (札幌提供)

者の作曲家早坂文雄に対する敬意と精緻な解釈が演奏を成功に導いたと思う。またこの難解な曲を楽

瞑想の時間を楽しんでは？

員一人一人の努力で演奏しきった功績と信じている。
（札幌くらぶ 西川吉武）

ここ半年くらい前から気が付いたことですが、色々なコンサートのプログラムの片隅に鑑賞に関する注意事項が載るようになってきた。

雑音を立てない、飲食をしない、録音録画をしない、隣や後ろの席の人が困る動きをしない…等々。今まで何百回かのコンサートで

ナーレのあり方は、作曲家の魂の集大成ではないかと思う。せめて、コンダクターが指揮棒を下すまでの数秒間、静寂と余韻に浸ったり、目をつぶって瞑想の時を過ごしてはいかがでしょうか。
（札幌くらぶ会員 木立憲吾）

の曲が何の違和感もなく身体が受付けている。洋楽に慣れた頭をなぞつてくれる。きっと北海道に住む人たちの誰の心にも触れていくに違いない。こんなすごい曲が日本にあったのだ？なぜ今まで全曲演奏がなしえなかったのだろうか？この交響的組曲「ユーカラ」が札幌

のオハコの演奏曲になるといい。早坂文雄という作曲家にあらためて敬意を払いたいし、もっと生きていたら、世界中の音楽家に愛された作曲家の一人であつたらうと思う。やがては交響的組曲「ユーカラ」とアイヌ民族の一大叙事詩「ユーカラ」が一体となったオペラ化を夢見る一人である。なんと

演奏が終わる、何秒かの静寂と余韻を楽しみたいと思つていても、曲が終わった瞬間、ブラボーと叫ばれ、頭の中のイメージが正に「フツ飛んだ」ということが何度かあった。

その曲、その曲のフイ

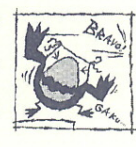
お願い
～気づかないうちにこんな行為をしていませんか～



- 話し声はもちろん、ビニール袋、鉛の包み紙、バックの開閉音、鈴などのチャム、足踏みなどは雑音を発生します。
- 咳やくしゃみの際は、口元にハンカチを当てるなどご配慮ください。



- 曲によっては早すぎる拍手やブラボーが他の方の感動を損ねることがあります。
- 香水やアルコールの強い匂いにアレルギーの方もいらっしゃる場合があります。
- お隣や後ろのお客様の通行や視界の確保にもご配慮ください。



コンサートは聴衆のみならず演奏者がひとつの空間を共有して作り上げる大切な時間です。ご協力ください。ピリッキー

音楽をダイレクトに伝えたい



プロフィール

神奈川県出身。2009年東京芸術大学卒業。卒業時に同声会賞を受賞。同声会新人演奏会に出演。第11回日本トロンボーン・コンペティション第2位、第26回木管打楽器コンクール・トロンボーン部門第2位のほか、第3回トロンボーン・カルテットコンクールinジバング第1位など。これまでに栗田雅勝、秋山湖心、古賀慎治の各氏に師事。2010年8月札幌交響楽団に副首席奏者として入団。

♪ 楽員さんに 興味津津！ ③ ♪ トロンボーン副首席奏者 中野耕太郎さんに聞く ♪

♪ ピアノよりスポーツ

小さい時から音楽を？

生まれは東京渋谷です。3歳からピアノを習っていました。3歳から嫌でした。両親は全然クラシックをやらないうし、何で習いに行くようになったのかなあ、僕は習いたくないなんて言っていないと思うんですけどね。小学生の時はサッカーが大好きで、ピアノの練習なんて全然してなかったと思います。

4年生の時に横浜に引越してからは、やっぱりスポーツが大好きだったのでクラブ活動でバスケットをしています。中学でもバスケット部に入ろうと思ったんです。

ですが、怖い先生がいて厳しいらしいという噂を聞いてやめたんです。その学校は吹奏楽が盛んで、仲のいい友達みんな吹奏楽に入っているのじゃあ行ってみたいなかなと。

それがトロンボーンとの出会い？

実は、小学校3年生の時に学校に金管バンドのクラブみたいのができて、ちょっとやってみようかと。まあトロンボーンはなんとなく動きが面白そうって思って選んだんですけど、1年ほどで転校したのでそれっきりになってしまいました。未練もなく。中学の吹奏楽部に入った時、そういえば前にやったことがあるからト

ロンボーンにしようかなと、軽い気持ちで始めたんです。それから

は中学、高校とずっと吹奏楽です。中学の時、部活の同級生のお兄さんにトロンボーンで芸大を出た方がいたんです。その同級生からいろいろな情報や教則本をもらったり、すごく影響を受けました。

高校に行つてからはその方にちよつと習つたりもしました。その友達とお兄さんがいなかったら今、やってないんじゃないかな。

そこから芸大を目指すことに？

高校を選ぶときに音楽系にという気持ちもあったのですが、親はまあ堅実に公務員にでも、みたいなこともあって普通の高校に行つ

たんです。でもその高校がかなり偏差値の高い高校で、もう勉強は嫌だな、大学は音楽で行こうかなと。それで、そのお兄さんの先生でNHK交響楽団の栗田雅勝先生に習うことになりました。

トロンボーンがいいなと思ったのはいつごろですか？

中学の時ですね。強い部活だったので盛んだつたし、男子部員も多くて楽しかったです。それから、芸大時代に日口の文

♪ あの伝説の雪の江別！

札幌に入ったいきさつは？

芸大の時はオーケストラに入りたいという気持ちはあまりなかったんですけど、卒業すると社会人になるわけですからやっぱりお金を稼いでご飯を食べていかなきゃいけないという当り前の現実を直視して、そこからオーデイションを受けるようになりました。札幌を受けたのは卒業1年

後くらいですかね。実はその直前に、縁があつてエキストラで呼んでもらったんです。そのコンサートが今でも伝説になっている雪の江別！

本当にひどい雪で楽器のストラックも着かない。何とか演奏会はできましたが、初めて来たときにそういう雪の洗礼を受けた

化交流でロシアに行ったことがあつたんです。音楽の分野から金管5人で参加してそこで吹いた時、音楽とは全然関係のない同世代の人たちからすごく良かったって言われたんです。その時から、小編成でいろんな場所で吹く機会が持てたらなあ、あまり音楽に興味がない人にも良かったって言ってもらえるような活動ができればなあと思うようになりましたね。

「北海道はそれが普通なんだ、こういうものなんだ」と思ってたんですけど、今思えば後にも先にもあれが一番ひどかった。

でも、オーケストラの雰囲気とか札幌っていう街の雰囲気、色々な面でいいなあと感じたのでオーデイションを受けてみようかなと思えました。オーデイションは3月だったんですがその時も雪が降っていましたね。僕は暑がりなのでどっちかっていうと冬の方がいいというもありました。雪が降ってもかえて、「ああ雪だ！」ってなんかすごく楽しくなりましたね。

トロンボーンってどんな楽器？

人の声にすごく近いって言われています。トロンボーンはそもそも最初からあの形で、ある意味進化してない。ちよつとバルブがついたりしているんですけど形



ガリガリだった小学校3年生の頃

は変わっていません。使われ始めたのが教会の聖歌隊の伴奏で、すごく神聖な楽器と言われていたんです。スライドが初めからあつたので半音階ができて全部の音が出るのはトロンボーンだけ。

オーケストラの中に入ってきたのは合唱曲とか、崇高な音楽、例えばオペラの神の声だったり。シンフォニーで初めて使われたのはベートーヴェンの5番からです。

イメージが変わりました！

トロンボーンってどうしても固い、強い、音がでかいっていうイメージですよ。僕たち札幌メンバリーでやっている札幌トロンボーン四重奏団を聴いていただくとかかと思えますが、音域も広いのと同じ楽器だけのカルテットとしてはすごくいいハーモニーです。メロディを吹くというよりはハーモニーを作るのが僕らの仕事。常に一緒にハーモニーを作っています。オーケストラだと吹く時間が少

ないので、その分カルテットで吹いて発散しています。4人は年も

♪ 実は…結婚します！

音が大きいですが練習はどこで？
普段はカラオケで練習しています。管楽器の人は結構多いですよ。マンションに住んでるんですけど、最初のころちょっと家で吹いてみたりしたんですけど、上からうるせえみたいなのが来たんでもう駄目だと。弱音のミュートとかはありますが、あまり練習にならないです。だから一軒家に引っ越そうと思ってるんです。

実は年内に結婚することになりました、この記事が出るのは10月でしたっけ？ちょうどそのころにする予定です。相手も吹くのでそれでちょうどいい機会だということで一軒家に。北海道は窓とか壁とか厚いじゃないですか。基本、二重窓だし、いいですよ。

出会いは札幌ですか？

芸大時代の友達です。ずっと仲は良かったんですけど、付き合ってから1年経ってないくらいですね。相手はトランペッターで、今はフリーで教えたりしています。

札幌の生活について？

札幌の演奏、仕事をする環境も含めすごくいいと思います。ここの生活に慣れてしまった後に東京に戻ると、こんな息苦しいところであってなんだ、と思います。

離れているのもう親子みたいな感じでやらせてもらっています。

キタラも公園のあんないいところを通じて広げていて。それこそサントリーホールなんて言ったらピルの谷間ですからね。芸森も本当に気持ちがいいです。なんかそういうのも含め札幌に対する不満っていうのはほとんどないですね。

けど、やっぱり自分の力を試したい、さらに上を目指したいという気持ちがあります。東京にいると自分の団じゃないところに行つてエキストラの仕事をしたり、仲間が集まってアンサンブルをしたり、いろいろ刺激的な面があります。札幌ではそういう機会はありません。で、正直すごく悩むところなんです。結婚するので、その環境として

もこっちはいろんな面ですごくいいと思います。暑いと言っても向こうとは湿度が全然違うので涼し



2004年コンペティションで入賞

い。管楽器は弦と違って楽器自体には関係ないですが、やっぱり空間が乾いている方が響きますね。でも、冬はストーブで部屋が乾燥するじゃないですか、最初の年は唇がガビガビになっちゃって参りました。加湿器を二台つけたり調節するのにそれは苦労しまし

♪ ダーツ&ドラマにはまっています

休日は何をされていますか？

最近は大ダーツをよくやっています。今は家にもダーツボードがあります。買っちゃいました！結構はまっていますね。スポーツもしたいんですけどなかなかそういう場所がなくて。あとはテレビドラマとかよく見ます。話題のドラマを録画して一気に見る。続きがすぐ見られるからいいですよ。

トロンボーンの場合、オケに3人しかいないとほぼ休みがゼロになってしまふんですけど今は4人いるので休みがもらえる。4人か3人かというのは雲泥の差があります。だから今、だいぶ弟子が増えてきて、教えに行ったりして忙しくしています。札幌に入ったばかりのころは札幌以外は何もなくて、定期が休みだと1週間空いてしまうのでしょっちゅう東京に帰ったりしていましたね。

札幌で印象に残った演奏会は？

最初の定期が尾高さんのマラーの3番だったんですが、この曲中には

た。今でも毎年1回ぐらいはなっちゃいます。唇が乾燥すると全く音が出なくなるので夜は必ずワセリンを、もうべたべたにつけます。トロンボーンのマウスピースはかなり大きいんですよ。唇全部とまではいかないですけど触れている部分がかなり広いんです。

トロンボーンの良いソロがあるの

で、トロンボーン奏者にとってはすごい憧れの曲。しかも4本使ってますね。最初だったってこともあってすごく印象に残っています。

あとは、わりと入ってすぐの時に50周年のヨーロッパがあつて、ヨーロッパは行ったことがなかったので公演自体がすごく印象に残っています。その時の諏訪内さんにすごく感動しました。何か

強さというか、いつどこにいてもどんな環境でも自分の演奏ができるってすごいなと思いました。それとプリンシパルで山下さんが

ソロをやったので、あとのポレロは僕が吹くことになった時。ポレロはトロンボーン奏者的にはもう本当にストレスがたまります。初めてやったのは釧路の演奏会だったけど、前日とか眠れなかったです。ポレロをやる時は一カ月ぐらい前からもうそわそわします。初めの音

が高いところから始まりますし、他の楽器のソロが8分間くらい続



マウスピースはかなり大きい

くんですが、トロンボーンは最

♪ クラシックとの架け橋に

札幌は色んな地域に行きますが地方に行くのと反応がいいです。雰囲気も温かい。町民のほとんどの人が来ていたり。札幌はなかなか。ヨーロッパはクラシック音楽が身近で、定期会員の数が人口の何十パーセントというすごい町もあつたりして。

札幌の定期会員も少なくはないんですけど、札幌の人口からするとまだまだ割合が少ないと思います。テレビとか、何かそういうのに出られないのかなあと思いますが、難しいんですかね。

今後はどんな活動を？

オーケストラだと自分の出した音や音楽に拍手をくださるといよりはやっぱりみんなの演奏に…という感覚ですよ。でも、少人数になればなるほど自分たちの感情がダイレクトに伝わるし、良かったとか楽しそうにしてください

後なので、8分間1音も出さずに待っている状態からあれを吹くといつのは本当に緊張が高まります。大学時代から緊張に弱くて本番が本当にダメで、北島康介の本とか買って読んだりしました。結局、緊張することでさらにもう一歩向こうの力が出る、だから今は緊張しないようにしようじゃなく、緊張した時にどう吹くか、という意識をやっています。

る感じもこちらにダイレクトに伝わってくる。その感覚が好きなので、小編成とかそういうもので直接表現できるような活動をもちょうとやっていきたいというのはあります。クラシックを身近に感じていただくためにもそういう架け橋みたいな役目ができたらいいなと思います。

クラシック界ってやっぱり女人が女人のためにやっているような感覚が強いと大学時代からずっと思っていて…。もしホールに入るといその第一歩が大変なんだとしたら、例えば外に出て行つてとか、そういう開けた場所で演奏したりすることでその一歩を僕が作り出せたいなあと思っています。

(2014年6月28日・キタホテル・レストランプローレンスにて)

インタビュー／井上・中居 編集／井上・村山・中居

随想 本棚の隅から 9

そろそろ、樹々が紅葉の準備を始めた、北から吹く風に寂しさの匂いがする。

季節はいつも大急ぎで過ぎていく。46年前の夏に小澤征爾が日本フィルハーモニーを率いて華々しく来道し、五都市を巡り、疾風のように去って行った。

小澤征爾／指揮
日本フィルハーモニー交響楽団演奏会

北海道百年記念協賛、STV創立10周年記念北海道公演プログラム
1968年8月27日
札幌中島スポーツセンター

ヴェルディ／「シチリアの夕べの祈り」序曲
モーツァルト／ホルン協奏曲第3番
番交木長調SM77(独奏／田中正大、小山清茂)

／管弦楽のための木

挽歌 抜粋

ドボルザーク／交響曲第9番 木短調 作品95「新世界より」

他の都市でも、公演会場のほとんどが体育館だったとは：
あのころは8月の末は涼しくなっていたから冷房のない体育館でも何とか快適だったのだろうが、音はどうだったか印象に残っていない。

それでも潜在意識の中に残っていたのか、40年ほど後の2007年4月の札幌定期演奏会のプログラムの中に「シチリア島の夕べの祈り」序曲があつて、広上淳一さんの指揮で聴いたとき、心に浮かんだことを書いてみた。

「いつか 聴いたことがあるのだろうか この曲を

こころの壁の奥から
かすかにたゆたう記憶の片鱗
曲の中から滲み出す
ほのかな 香り

揺れる 花模様のスカート
のどかな 午後 団欒の時
遠いある日 この曲を
聴いたことがあるのだろうか」

音楽の力はなんて凄いのだ。
昭和48年は東大紛争発端・キング牧師暗殺・パリ5月革命・小笠原諸島が日本へ返還される・川端康成ノーベル賞受賞決定・GNP世界2位・3億円事件・ジャクリース・ケネディがギリシャの大富豪オナシスと再婚(私見、マリア・カラスの心情や如何に！)

1960年代の札幌はフルオーケストラなど、めったに來ない田舎で、生で音楽を聴きたいと切望している市民にとって、ホールの良し悪しなどと贅沢を言っている時代じゃなかった。

スタッフの活動報告 (平成26年7月～9月)

●会報「札幌くらぶ」第67号発送作業

7月23日(水) 14:00～17:30
エルプラザ2階消費者サロン1番担当・参加者/事務局長他10名

会報「札幌くらぶ」第67号を800部発行、会員、札幌関係、報道関係などに約600部配布した。

●第4回札幌くらぶ運営会議開催
7月23日(水) 18:00～20:00
エルプラザ18人用会議コーナー担当・出席者/事務局長他14名

会報「札幌くらぶ」第67号及び第

時を過ぎ、ある早春のこと、絵の仲間と中島公園へ雪景色の写生に出かけたなら工事中の現場に出くわした、「音楽ホールの工事が始まったんだね」と、話し合いながら歩き回ったが絵の描けそうな場所もなく「文学館でお茶でも飲もうか」と喫茶室の片隅で雑談をしていた。

そこで「Kikaraクラブ」の入会申込書が目だったので、早速持ち帰り、即申し込んだ。
会員番号は46番、以来私は「Kikara」と札幌を熱愛している。(井上明子)

68号、JOFCC山形総会ツアー、ゲネプロ見学会、楽員との懇談会、札幌くらぶサロン、V-netフォーラムなどについて協議した。

●V-netフォーラムに参加
8月9日(土) 15:00～18:00
札幌市資料館2階会議室
担当・参加者/西川副会長他4人

●第5回札幌くらぶ運営会議開催
8月26日(火) 18:00～20:00

エルプラザ18人用会議コーナー担当・出席者/事務局長他14名
会報「札幌くらぶ」第68号、JOFCC山形総会ツアー、ゲネプロ見学会及び練習見学会、Xmasパーティー、札幌くらぶサロン、市内中学校札幌定演招待事業について協議した。

●第571回定演ゲネプロ見学会開催
8月29日(土) 15:00～16:20
札幌コンサートホール大ホール
担当/定政事務局次長

ゲネプロ見学会を札幌の当日よりハーサル公開と合同で開催し、札幌くらぶからは18名が参加した。

●第8回札幌くらぶサロン開催
9月6日(土) 17:30～20:30
札幌市教育文化会館402号室
担当・参加者/上野次長他33名

第1部・第2部は八木幸三氏がプログラムス、シベリウス、マーラーについてエピソードを交えながら楽しく解説、第3部の交流会では、楽しく親交を温めた。

●第6回札幌くらぶ運営会議開催
9月19日(金) 18:00～20:00
札幌コンサートホール第1会議室
担当・出席者/事務局長他14名

会報「札幌くらぶ」第68号、札幌定期演奏会練習見学会(11/13)、Xmasパーティー、札幌くらぶサロン、市内中学校札幌定演招待事業などについて協議した。

(事務局長 武藤義典)

編集後記

◆「楽員さんに興味津々！」のインタビュの場を実際には居なかったのに、その場の様子を思い浮かべながらインタビュアー立会いの下、原稿に口をはさみました。「知らぬが私の言いたい放題」もまた楽し。(村山)

◆若い楽員さんにインタビューをさせて頂くと、「なんて人生を楽しんでいるんだろう！」今の平和と自由を守らなければ、と思う。「札幌くらぶ」に入り、楽員さんと親しくなると老後を楽しんでいます。(井上)

◆何年前になるか当時の市民会館の名曲シリーズを解説していらしたのが竹津さんでした。優しく楽しいクラシック入門でした。その時からずうっと私は札幌と竹津さんのファンです。感謝。(中居)

◆「札幌くらぶサロン」過去七回に亘って竹津さんからお話いただいた事や教えていただいた事、そして一緒に札幌アカイブを聴いて感動を共有できた事は私の財産となりました。ありがとうございます。(上野)

呈 贈 束 花



チェロ奏者文屋治実さんが6月28日(土)B日程を最後に札幌を退団しました。屋さんは、札幌退団後もこれまでと同様のコンサート活動を続けていかれるとのこと。会員の皆様方も聴きに行ってください。

(武藤)